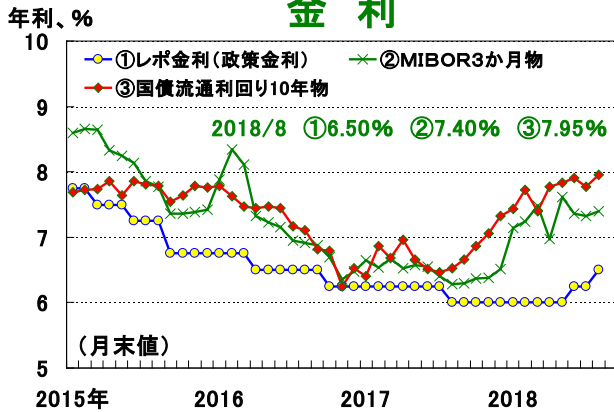


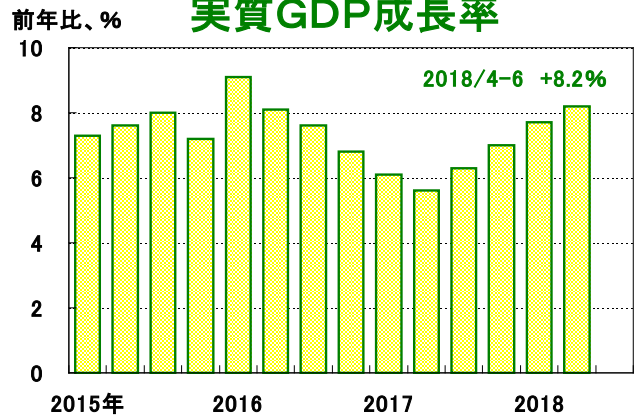
グラフで見るインド経済 2018年9月号(No. 105)

2018年4～6月期の実質GDP(国内総生産)は前年比+8.2%(前期は同+7.7%)と、9四半期ぶりの高い伸びとなった。GDPの5割強を占める個人消費(1～3月期:前年比+6.7%→4～6月期:同+8.6%)が加速したことに加えて、輸出(1～3月期:同+3.6%→4～6月期:同+12.7%)が2桁増となったことも成長率を押し上げた。一方、直近の月次指標は、景気が緩やかに鈍化していることを示唆している。すなわち、7月のコア産業生産指数が前年比+6.6%と減速し、また同月の新車販売台数も同-2.7%と9か月ぶりの減少に転じた。

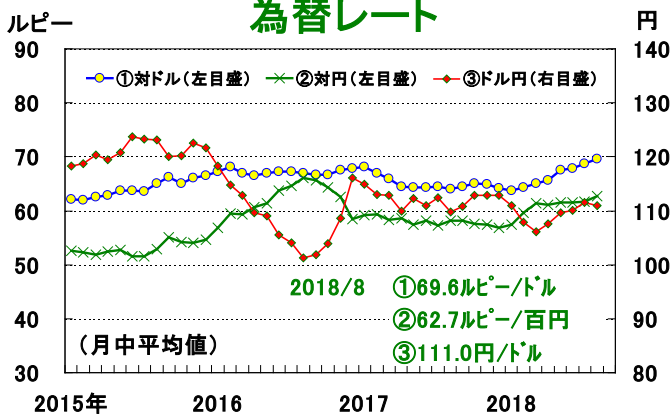
金利



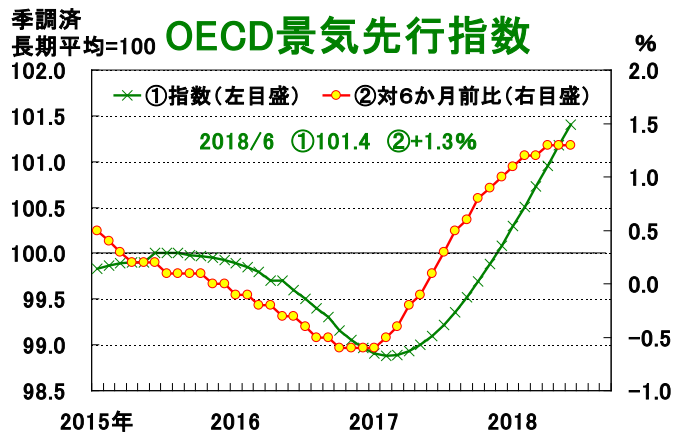
実質GDP成長率



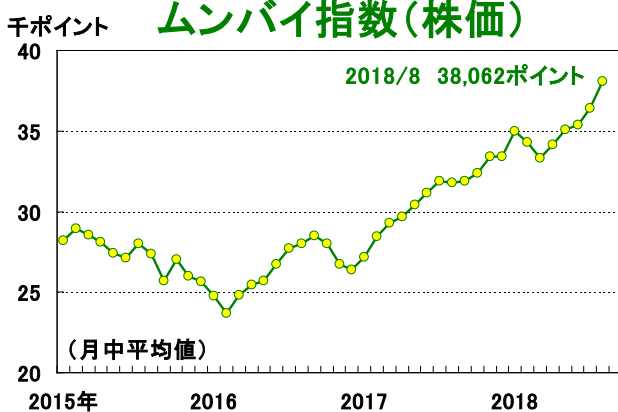
為替レート



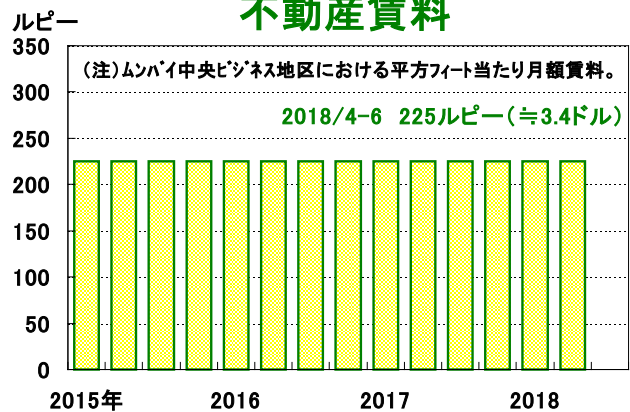
OECD景気先行指数



ムンバイ指数(株価)



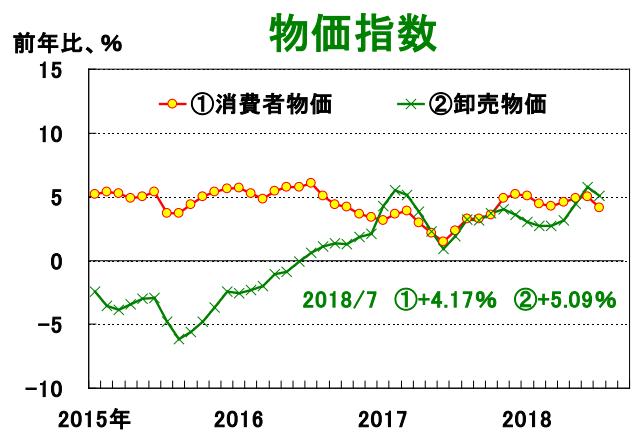
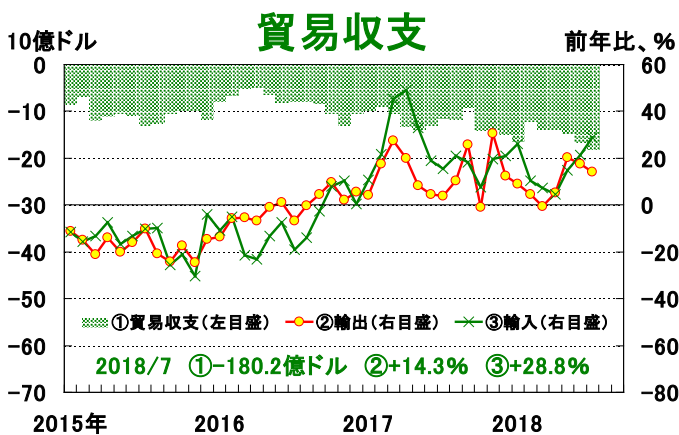
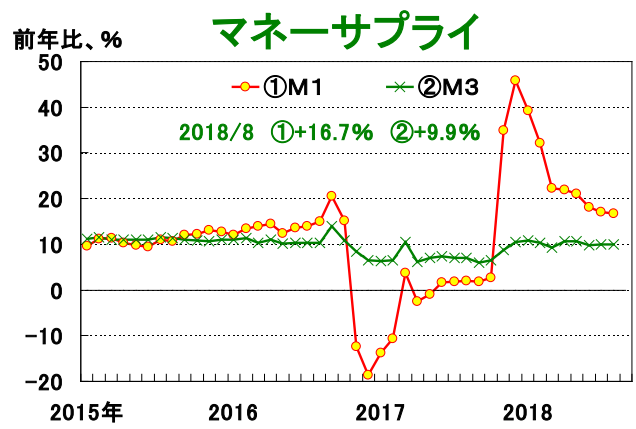
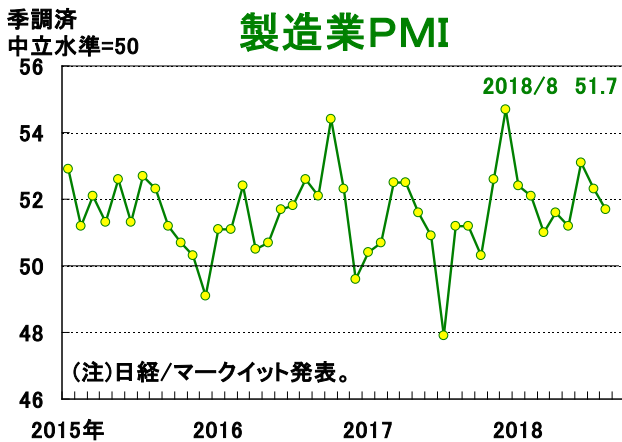
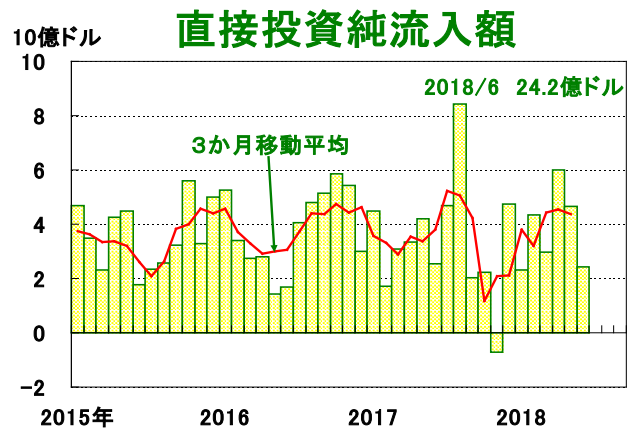
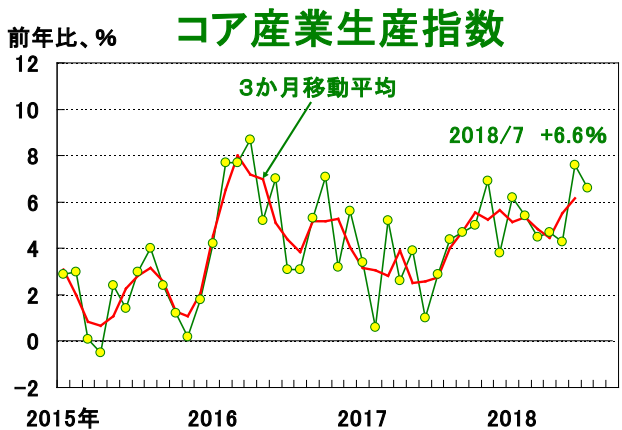
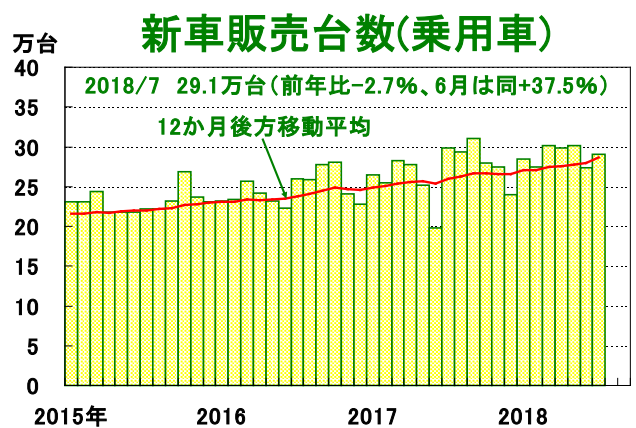
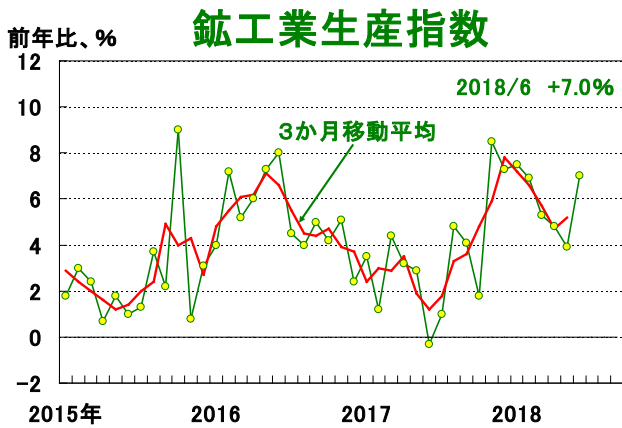
不動産賃料



【今月のトピック:原油高と通貨安で強まるインフレ圧力】 インドはエネルギーの輸入依存度が高く、原油の8割強を輸入している。米国によるイラン制裁とベネズエラの産油量の減少を背景とした原油高は、インド経済にとって頭の痛い問題となっている。加えて、トルコリラが急落する中で、インドルピーはじり安基調で推移しており、原油高と通貨安による輸入インフレが懸念される状況となっている。8月1日の金融政策決定会合で、インド準備銀行は前回6月の会合に続いて政策金利を引き上げた。当面、政策金利は現状維持が見込まれるものの、物価動向次第で近い将来に再利上げが実施される可能性もあろう。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用にはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。